

解題

詩學還丹 二卷

源 孝 衡 著

此書は初學の士に詩を作るに最も入り易き徑路を示すを以て主旨とせり所謂換骨奪胎の法に因り、古人の詩を本として、一篇の詩を作り出だすことより、和歌を翻して詩と爲す法を示す等皆初學に切實ならざるはなし、凡骨をして忽ち神仙に化せしむるの手段なりとは、著者が書に名づけたる所以なり、然れども是れ尙ほ初學の事に屬せり、盧門の序に戒めたる所、また此書を讀むもの尤も心を用ふ可き所とす、著者の傳は詳ならず、(安永六年五月刻、天保八年七月補刻、大阪敦賀屋九兵衛)

世雖有精鐵冶師不加陶鎔則不能成湛盧雖有良木梓人不施斤鋸則不能成宮室矣近世詩材之書刊行于世者繁且多也率如精鐵良木也然或志于詩者索其數書將學之而不成則以爲不可及之及之余每憾焉三野源襄平夙齡而有逸才一入吾龍先生之社竭精覃思淬礪甚窮頃日著詩學之一書其爲書也述摹擬古人之詩或以國歌爲詩句以和言爲詩語等之事將俾初心易入于學詩之境於戲可謂最哉是猶冶師梓人之教人成陶鎔斤鋸之術也貫習于陶鎔斤鋸而后得精鐵良木能察銛鈍視細巨施之巧則庶乎成湛盧之利宮室之美矣然苟且而安於卑近以爲詩易成者余之所不取也丁刻成是爲序。

安永丁酉夏五月

盧門 平信好師古課

凡例

一本邦右文之化、日ニ隆リニ、詩學大ニ興リ、詩材之書、日ニ刊リ月々ニ鑄ム、山ニ積ミ海ニ量ツテ、事トシ備ハラザルコトナシ、然レモ初學、一字ヲ下スコト能ハザル者ニ至ツテハ、詩材ノ書多シトイヘモ、規矩ヲトルノ道ヲ知ラスンハ、何ニ因テカ材ヲ用ルコトヲ知ンヤ、今此書ハ、専ラ名匠材ヲ用ルノ法ヲ示シ、初學ノ規矩トス。規矩ニヨリ材ヲ用ヒハ、魯般ガ工致シツベシ。

一和歌ハ本朝ノ風俗也、詩ハ中土ノ音聲也、和歌ハ知リヤスク、詩ハ言ガタシ、然レモ志ヲ言フニ至ツテハ一也、此書和歌ヲ以テ額シ、詩トナスノ法ヲ示シ、初學門ニ入ルノ一助トナス。

一此書ヲ還丹ト名クルコトハ、還丹ハ仙藥也、凡俗庸士トイヘモ、是レヲ得テ服スルコトアラバ、化神換骨、遐舉センコト必セリ、況ヤ其原ヨリ仙骨アル者ニ於テヤ。

目 録

卷 之 上

初古人換骨奪胎ノ法ニ據リ、故ヲ轉ノ新トスルノ法ヲ示シ、初心即席早作ノ則トス、次ニ古人ガ古人ノ句ヲ換骨奪胎シテ、千變萬化セシコヲ示シ、次ニ唐賢ノ句法ヲ標格ト成サシメ、初心邪路ニ陷イルコヲ防ギ止メ、次ニ字眼等ノコヲ示ス。

卷 之 下

初古樂府等ニ、題命スル諸體ヲ略解シ、次ニハ律詩絶句平仄ノ圖、拗體等ノ圖ヲ舉ケ、次ニハ和歌ヲ翻ソ詩ト成シ、俗語ヲ漢語ト爲ス例ヲ示シ、和歌ニ通セル人ハ、詩ハ必ズ作り得ベキコヲ示シ、次ニハ故事ヲ用ルノ法、詩意ノ含蓄連綿字等ノ遣ヒ方アルコヲ示シ、一句ノ中、活字死字等アルコヲ示シ、以テ初心詩門ニ入ルノ便リトス。

目 録 終

詩學還丹卷之上

春川 源孝衡襄平 著

初學詩ヲ學バント欲スルニ、別ニ意趣ヲ求ムルコトヲ用ヒズ、只其性情ヲ吟咏シ、己レカ志ヲ暢ルヲ詩トハ言フ也、然レモ志ニ邪正アリ、識ヲ立ルコト邪ナレバ、下劣ノ詩魔アリテ肺腑ニ入ル、滄浪有言曰、近代諸公作奇特解會、以文字爲詩、以議論爲詩、終非古人詩、我朝近世諸公ノ詩ヲ見ルニ、亦復然リ、享保ノ諸先生徂徠南郭ノ徒明ヲ唱ヘテ、詩風大ニ興ルト云ヘモ、近世ニ至ツテハ、奇特議論ヲ好ンデ、漸ク宋人ノ隨風ニ陷ル、初學最モ歩ヲ正フセル、華人ノ詩ヲ作ルハ平上去入ノ四聲ヲ正フノ句毎ニ音律ニ叶フ、本邦ノ人ハ、四聲ヲ分ツコト能ハズ、故ニ初學ノ文字ヲ聯ルニ、唐人ノ熟字ノミヲ用ヒハ、自然ニ四聲ノ調子ニ叶ヒテ、唐人ノ詩ト同シク音律ニ合スベキ也、若シ奇特議論ヲ好デ、日本流ノ細工文字ヲ遣ハシ、新コトノ様ナレモ、決メテ四聲音律正シカラザルゾト知ルベシ、今本朝ノ人詩ヲ作ルヲ見ルニ、四聲ヲ分コトハ夢ニモセズ、只平仄ト云フコトヲ覺ヘテ、二四不同二六對ト作レバ、ソレデ音律ニ

叶フト、覺ヘテ居ハ、マモナキ取遠ヘ也、平上去入ノ四聲ノ中デモ、平聲ニハ、上手下手ト上リ下リノ二ツノ調子アリ中々精密ナル事ドモナリ、本朝ノ人ノ詩ハ、吟ズルニハ、方訓ナルガ故ニ、四聲ヲ分ツコト能ハズシテ、詩ノ善惡ノ差別スルニモ、議論奇特ヲ貴ビ、音律ノ處ヘハ意ヲ付ケズ、故ニ自ラ陋風ニ陷ル、假令二四不同二六對ニ平仄ヲ合セテモ、一句ノ中、東董送屋支紙寘、ナトニカ、ル文字ナドノ、同音聲ニテ一章ヲ成シ、又ハ四聲混雜シテ章ヲ成シタリナドスレハ、唐音ニカツテ見レハ、同聲多クシテ、一ツコトバカリノ音ニナリ、又ハ四聲位ヲ失シテ、モ缺舌ガ如ク、舌切レナル音ニナル也、サレバトテ、四聲ヲ分テト云ハ、此國ニ生レタル悲サニハ、白頭マデ學ブトモ益ナシ、左スレバ唐人ノ遺ヒ置キタル熟字ヲ、エラビ用キテ、自ラ音律ニ叶フコトヲ、習得ルニ如クハナシ、功ヲ積精ヲ凝ラサバ、後ニハ自ラ四聲モ分チ、音律ニモ叶フベキ、作リカタヲ得意スベキ也、予換骨奪胎ノ法ヲ以テ、人ヲ教諭ス、然レハ初學ノ一字ヲ下スコト能ザル者ニ至ツテハ、何ニ因テカ、其法ヲ施スコトヲ得ンヤ、故ニ先ツ一紙圖ヲ作り、初學ノ字ヲ下スベキ法ヲシラシム、換骨トハ、古人ノ句勢ヲ其儘ニトリ、句意ヲ造理スル也、奪胎トハ、其句意ヲ規摹己レカ興趣ヲ言ヒ

ノベ、古人ノ句法ヲフマヘテ、己レカ句ヲ成スヲ奪胎ノ法トハ云也、今此ニ圖シテ示スハ、唐人ノ詩ナリ、此一首ヲ變シテ四首トス。

三日尋李九莊

常建

雨歇楊林東渡頭

永和三日盪輕舟

故人家在桃花岸

直到門前溪水流

此ノ詩ヲ此儘ノ句勢ニ變シテ、夏景トナサバ、

五日訪李九莊

雨霽薰風競渡頭

蘭橈桂棹倚輕舟

驛人獨唱滄浪曲

靜對門前溪水流

此レ夏ノ詩也、又此ノ句勢ニテ、秋景ニナサバ、

九日遊李九莊

霜老楓林東渡頭

淒風落日吹蘭舟

漁人笛在蘆花畔

秋滿門前溪水流

此レ秋ノ景也、又此句ト同シ勢ニテ冬ノ詩トナサバ、

雪日過李九莊

雪滿剡溪古渡頭

一樽短棹促輕舟

風流更邵山陰趣

先到門前溪水流

此ノゴトク、其ノ座ニ臨ミ、卽興ヲ賦スルカ、古人ノ句法ヲフマヘテ襲ヒ作ラバ、一斗百篇難カルベカラズ、然レモ以上ノ諸篇ハ、重蒙一字ヲ下スコト能ハザル者ノ爲ニ示シ教ルノミ、故ニ兒童ノ語タルコトヲ免レズ、然レモ此ノ意ヲ通曉シテ、古人ノ

句法ニ熟シテ、議論ノ陋習ニ陥ラス、水月鏡花ノ趣ヲ得テ、先賢ノ旨趣ヲ換骨シ奪胎セバ、進ンテ大雅ノ域ニ入ルベシ、只詩ノミ奪胎スベキニアラズ、和歌トイヘ、
 翻轉シテ詩トナスベキ也、タトヘバ、盧橘花開楓葉衰フト云詩ハ、盧橘ノ花ノ開キ
 シ折、故郷ヲ出デシカ、光陰箭ヨリモ早シテ、最早楓葉ノ衰フル時節ニナリタリ
 ト、驚キタルナリ、是レハ和歌ノ都ヲバ、籠ト共ニ出デシカド、秋風ゾ吹ク白河ノ關
 ト、云ト同シ意味ナリ、尙和歌ヲ翻シテ詩トナスコトハ、次ノ卷ニ委ク記ス、今此ニハ
 先ツ古人奪胎ノ法ヲ舉ケ初學ニ示ス、陰鏗カ詩ニ、

鶯隨入戶樹、花追下山風、

ト云フヲ杜ガ詩ニ

月明垂葉露、雲追渡溪風、

トナシ又

水流行地日、江入度山雲、

トナセリ、杜詩ノ句勢陰鏗ヲ模寫セル者ナレ、句勢同フシテ句意工麗ナルコト、陰鏗ニ十倍セリ、又、庾信カ詩ニ、

永_ホ韜_ト三尺_ノ劍_ヲ、長_ホ捲_ト一_ノ戎_ノ衣_ヲ、

ト云フ、老杜摸寫シ得テ、

風塵三尺劍、社稷一戎衣、

トナセリ、是レ庾信ガ詩可ナルコトハ可ナリ、然レモ老杜ニ至ツテハ、石ヲ千仞ノ峰ニ轉ノ勢アリ、庾信ニ長セルト甚タシ、此レニ因ツテ、是レヲ思ヘハ、杜子美ハ詩聖ナリ、庾信ヲ摸寫セズトイヘモ、如何様ニモ、新奇ヲ云ヒ出スヘシ、然レモ、尙古人ノ句ヲフマエテ、如此ノ陰鏗庾信ナドノ詩ニヨリテ、奪胎ノ法ヲ以テ、摸寫シ作り置レタレハマシテヤ、今時ノ學者ハ、古人ノ熟字ニ非スンバ、片言半句ト雖モ用ユベカラザル也、又點化ノ法アリ、點化トハ古人ノ詩意詩句共ニ取り用テ、工ニスルヲ云フナリ、タトヘハ李白ガ、白髮三千丈ヲ、荆公點化シテ、綠成、白髮三千丈ト、ナセルガ如シ、徐陵鴛鴦ノ賦ニ、

山雞映_レ水_ニ那_ノ相_シ得_、孤鸞照_レ鏡_ニ不_レ成_、雙

天下真_ニ成_、長_ニ會_、合_、無_レ勝_、比_、翼_、兩_、鴛_、鴦_、

ト作り置キシヲ、黃魯直此ノ賦ヲ點化シテ、畫睡鴨ニ題スル詩トナシタリ、其詩ニ

云、

山雞シヤウ照シヤウ影カウ空クウ自ジ愛アイ、孤コ鸞ラン舞マシ鏡キョウ不フ成セ雙ソウ、

天下テン真シ成セ長チヤウ會クワイ合カフ、兩リウ鳥ニウ相ソウ倚イ睡スイ秋シュウ江カウ、

ト云ヘリ、是レ全篇徐陵ガ句意ニシテ、結句ヲカヘタルバカリナレドモ、一篇熟讀スレハ、鴛鴦ト睡鴨トノ意味キツト分レタリ、是レ點化ノ法ニシテ、初學ノ法式トスヘキ者也、又換骨ト奪胎トノ別チハ、唐人ノ詩ニ、

因イン過カ竹チク院エン逢フ僧ソウ話ワ、又得イ浮フ生シヤウ半ハ日ニツ閑カン、

東坡此ノ句法ヲ用ヒテ、

慇イン懃ニ昨ソク夜ヤ三サン更コウ雨ウ、又得イ浮フ生シヤウ一イツ日ニツ涼リヤウ、

トナセリ、是換骨ノ法ナリ、唐詩ハ、因逢僧半日ノ閑ヲ得タリト云ヒ、東坡ハ雨ニヨリテ一日ノ涼ヲ得タリト云フ、是レ句勢ハ同シケレトモ意味ハ遙ニ異ナリ、又鄭毅夫カ詩ニ、

夜來過嶺忽聞雨、今日滿溪俱是花、

ト云ヒシヲ、或ル人取ツテ、

不知重嶂夜來雨、晴曉石南花亂流、

トナシタリ、是レ奪胎ノ法ナリ、二詩トモニ、昨夜ノ雨ニヨリテ、花ノ流レ出ルヲ云タレトモ、前ノ詩ハ、夜來ト云ヒ、忽聞雨ト云タレハ、實雨ニシテ、夜ノ雨ニヨリテ、溪ニ紅ヲ漲スナルベシト見極タルナリ、後ノ詩ハ、不知墨嶂夜來雨ト、不知ノ字ニテ疑フテ、虛雨ナリ、石南花ノ流レ出ルヲ見ルニ付ケテ、扱ハ昨夜墨嶂ニハ雨ガアリシヤラン、今朝アカツキニ、溪水モマシ、花モ流レタリトアヤシム體ナリ、前詩ノ句勢ヲ用ヒタリト雖ヘ、是、虛實ノ變、絶妙ノ深旨アリ、又退之カ詩ニ、

如何連曉雨、祇是說家鄉、

ト云ヒシヲ、呂居仁此ノ句法ニ本ツイテ、

如何今夜雨、祇是滴芭蕉、

是レ連曉ヲ、今夜トナシ、家鄉ヲ、芭蕉ト、ナシタルバ、カリニシテ、句勢ハ全ク同ジナレ、其工ナルヲ、一點ノ瑕ヲ見セズ、又只一事ヲアシライノ仕方ニテ、色々ト工ナルヲアリ、タトヘハ白道猷カ詩ニ、

茅茨隱不見、雞鳴知有人、

ト云ヒシヲ秦少游此句意ヲ用ヒテ、

菰蒲深處疑無地、忽有^ナ人家笑語聲、

ト作レリ、又僧道潛モ此句意ヲ用ヒテ、

隔^ナ林^ナ彷彿聞^ナ機杼、知^ル有^ル人家在^ル翠微、

此三詩旨趣少異アリト雖、句勢ハ全ク同ジ、道猷ハ難ノ聲ニヨリテ人家アルコトヲ知リ、少游ハ笑語アルヲ聞テ、人家アルヲ悟リ、道潛ハ機杼ニヨリテ、人家アルヲ覺フ、是レ道潛少游ハ共ニ道猷ノ句ニヨリテ此趣向ヲ出セシナレト、少游ハ道猷ヨリモ工ニ、道潛ハ少游ヨリモ巧ナリ、是レ皆ナ奪胎ノ法ニ鍛鍊シテ、狐白裘ヲ儷ノ名手也、又辭全ク殊ナレト、意全ク同キ者アリ、退之カ早春ノ詩ニ、

天街小雨潤如酥、草色遙看近卻無、

最是^モ一年春好處、絕勝^ナ烟柳滿^ル皇都、

蘇子瞻カ初冬ノ詩ニ、

荷盡已無^レ擎^ル雨蓋、菊殘猶有^レ傲^ル霜枝、

一年好景君須^レ記、正是^レ橙黃橘綠時、

此ノ二詩ハ、題モ冬ト春トニテ、辭モ大ニ殊ナレテ、逐一ニ語勢ヲ考フル時ハ、意味大ニ同ジ、是レ又奪胎ノ一道標也、又古文ヲ以テ、新句トナセルモノアリ、庾ノ信宇文盛カ墓誌ノ銘ニ、

受圖黃石、不無師表之意、

學劔白猿、遂得風雲之志、

杜牧之題李西平宅詩ニ、此ノ意ヲ用ヒテ、

受圖黃石老、學劔白猿公、

ト云ヘリ、是レ又古語ヲ摸寫スルノ法ナリ、漢魏盛唐ノ諸作者トイヘテ、古人ノ跡ヲ履サルノ詞ハアラジ、請フ試ニ、是ヲ示サンニ、江淹カ擬湯惠休詩ニ、日暮碧雲合、佳人殊未來ト云ハ、謝靈運ガ圓景早已滿、佳人猶未適ト云ヲ摸寫セルナリ、梅堯臣カ鄰居ノ詩ニ、壁隙透燈光、籬根分井占ト云ハ、徐鉉カ詩ニ、井泉分地脈、枯杵共秋聲ト云フ意味ニ相同シ、是ニ因テ之ヲ思ヘハ、古人モ古人ノ跡ヲ摸寫シテ、精密ニ至リシト覺フ、況ヤ今人古人ノ跡ヲ摸寫セズシテ、何ニ因テカ精妙ニ至ルコト得ンヤ、又摸寫ト儻トノ分チアリ、學者意ヲ留ムヘシ、先ツ詩ニ三儻ト云フアリ、所謂儻

語儻意、儻勢、是レナリ、儻語ハ、人ノ作り置キタル佳句、妙辭ヲ取リモナラサズ、其儘ニヌスムヲ言ナリ、最鈍賊ナリ、君子爲スベカラザルノコト也、儻意ハ、一句中ノ意ヲヌスミテ、語勢ヲ換ルナリ、是レ換骨ノ法ナリ、儻勢ハ、古人ノ妙句ノ勢ヲ儻テ語意ニ少シモカ、ワラズ、是レ高妙ノ手段ニシテ、狐白裘ヲ儻ムノ巧ナリ、初メニ言ヒシ如ク、儻語ハ鈍賊ノコナレバ、古人ハ決シテセザリシナリ、初學ノ人、謹ムテ侵スコトヲ成サザレ、今儻意儻勢ノ二例ヲ舉ケテ示サン、儻意ハ柳渾ガ詩ニ、

大液微波起、長楊高樹秋、

ト云ヲ沈佺期儻意シテ、

小池殘暑退、高樹早涼歸、

ト爲シタリ、是レ大液ヲ小池ニ作り、微波ヲ殘暑トナシ、長楊ヲ高樹ニ換ヘタリ、其本ハ柳渾ヨリ出タリトイヘル、人はヲ見テ知ルコト能ハス、高妙ノ手段ナリ、儻勢ト

ハ嵇康カ詞ニ、

目送歸鴻、手揮五絃、

ト云ヒシヲ、王昌齡其勢ヲ儻テ詩トナシタリ。

手攜雙鯉魚、目送千里雁、

是レ詩歌狐白裘ヲ偷ムノ手段、其瑕疵ミルベカラズ、妙モ又甚ダシ、初學以上ノ作例ヲ見テ、古人詩ニ用ル所ノ意如何ト知リ思無邪ノ道理ヲ會得シテ、我意ノ正シキヲ欲シ、唐賢ノ句格ヲ涉獵シテ、下劣ノ鄙言ヲ遠ザケ、詩魔ノ肺腑ニ入ラザルヲ欲セヨ、今初學ノ爲メニ、唐賢ノ句格法トスベキ者若干ヲ舉ゲテ作例ヲ示ス。

典重

典禮嚴重ノ句法ヲ云フ

誦詩聞國政、講易見天心、

坐謀資廟畧、飛檄伸文雄、

上公周太保、副使漢司空、

黃閣開帷幄、丹墀拜冕旒、

八荒開壽域、一氣轉洪鈞、

聖藻垂寒露、仙杯落晚霞、

簾捲青山巫峽曉、烟開碧樹洛宮秋、

千門柳色連青瑣、三殿花香入紫微、

豪壯 句法ノスグレテサ
カンナルテ云フ

黃山四千仞、三十二蓮峰、

大液天爲水、蓬萊雪作山、

吳楚東南坼、乾坤日夜浮、

宮闕通祥雲、乾坤到十洲、

帆飛楚國風濤潤、馬渡藍關雨雪多、

清新 句法ノサワヤカニ
ウツクシキテ云フ

行到水窮處、坐看雲起時、

小桃初謝後、雙燕恰來時、

蝴蝶夢中家萬里、杜鵑枝上月三更、

流麗 風流美麗ノ
句法ヲ云フ

舞鬢金翡翠、歌頸玉鱗鱗、

風箏吹玉柱、露井凍銀牀、

錦帳郎官醉、羅衣舞女嬌、

詩學選丹卷之上

柳塘春水慢，花塢夕陽遲。

歌繞夜梁珠宛轉，舞嬌春席雪朦朧。
眉黛奪將萱草色，紅裙妬殺石榴花。

奇偉

句法奇怪ニシテ
雄大ナルヲ云フ

白羽搖如月，青山斷若雲。

風流峴首客，花豔大堤倡。

秦地吹簫女，湘波鼓瑟妃。

風旗翻翼影，霜劍轉龍文。

當軒半落天河水，遠徑全低月樹枝。

殘星數點雁橫塞，長笛一聲人倚樓。

刻琢

句意精密ニシテ
流麗ナルヲ云フ

黃雲斷春色，畫角起邊愁。

杜魄呼名叫，巴江學字流。

苦調琴先覺，愁容鏡獨知。

雀聲花外，暝。客思柳邊，春。
紅稻啄餘鸚鵡粒，碧梧棲老鳳皇枝。

寒苦

孤風沈吟ノ
句法ナ云フ

親朋盡一哭，鞍馬去孤城。

暮隨江鳥宿，寒共嶺猿愁。

雪嶺無人跡，冰河足雁聲。

水聲冰下咽，沙路雪中平。

食隨鳴磬巢鳥下，行踏空林落葉聲。

自然

句意ニカザリナク言ヒ
絶妙ナルヲ云フ

樹樹皆秋色，山山惟落暉。

今宵一別後，何處更相逢。

飛來南浦水，半是華山雲。

羞將新白髮，卻對舊青山。

共看今夜月，獨作異鄉人。

詩學選丹卷之上

共知人事何嘗定、且喜年華去復來、

工巧

句意ノ多クミ
ナルヲ云フ

暫將弓共曲、舖與扇俱圓、

木落山城出、潮生海棹歸、

鳥歸花影動、魚沒浪痕圓、

浦轉山初盡、虹斜雨半分、

雲間東嶺千重出、樹裏南湖一片明、

閑適

陶淵自適ノ
句法ヲ云

戶外一峰秀、階前衆壑深、

白髮老間事、青雲在目前、

水春雲母碓、風掃石雨花、

竹引攬琴入、花邀載酒過、

硯和青鶴凍、簾對白雲垂、

不貪夜識金銀氣、遠害朝看麋鹿遊、

佳境

言外ノ餘味
アルヲ云フ

淑氣催黃鳥、晴光轉綠蘋、

山光悅鳥性、潭影空人心、

江村片雨外、野寺夕陽邊、

河漢秋生夜、杉梧露滴時、

巖花點寒溜、石磴掃春雲、

渭水晴光搖草樹、終南佳氣入樓臺、

精絕

精新絕妙
句法ヲ云フ

雲霞仙路近、杯酒俗塵疎、

風清江上樹、霜洒月中碁、

雪侵帆影落、風逼雁行斜、

卷幔天河入、開窗月露微、

月明三峽曉、潮滿二江春、

藍水遠從千澗落、玉山高竝兩峰寒、

詩學蓮丹卷之上

連珠

句意相照ヲシテ玉ヲ貫クガ如キヲ云

千峰孤燭外、片雨一更中、

萬水千山路、孤舟一日程、

五湖三畝宅、萬里一歸人、

空城流水在、荒澤舊村稀、

遠山芳草外、流水落花中、

小池殘暑退、高樹早涼歸、

楊花細逐桃花落、黃鳥時兼白鳥飛、

以上ノ好句法ヲ以テ、規矩トシテ日夜ニ熟練シテ、吾カ意ニ發端スル趣ヲ立テ、換骨シ奪胎シテ、詩句ヲ作ラハ、日日ニ新タニシテ、精苦豪麗、作リ得ズト云フコトアラシ、併シ此ニ舉ケタル處ノ句ハ、斷章ニシテ、全篇意脈貫通セル者ニハアラズ、今一例ヲ舉グテ、初學ノ爲ニ成章ノ法ヲ示メサン、意脈貫通トハ、一篇ノ語脈貫テ連珠ノ如クナルヲ云フナリ、例セバ、

打起黃鸝兒、莫教枝上啼、

啼時驚妾夢、不得到遼西。

此レ唐人ノ詩也、詩ノ意ハ、鶯ノ春シリガホニ、我ガネヤノホトリニ來リ、サヘツルハ、心ナキコ哉、アフレ誰此ノ鶯ヲ追ヒタテ、我ガネヤノホトリノ木ニハ、近ヅキ棲マヌ様ニ、仕タキ者哉、此ノ鶯ガナク故ニコソ、我レ夢ノ中ニ、遼西ニ征キテ、夫ノカホヲ見ントスレ、鶯ノ音ニ夢ヲサマサレテ、夫ニ見テガナラスハ、扱モ扱モニクキ鶯ノ音哉ト曰フ意也、鶯ノカツユラシキ音サヘモ、夫ノ顔ヲ見夢ヲ妨レバ、ニクシト思フハ、婦人ノ情ニシテ、能ク言ヒ取りタル詩ナリ、此詩打起黃鶯兒ト云ヨリ、不得到遼西ト云マテ、脈絡貫通シテ、纏ヲツラネタルガ如シ、唐人ノ詩ニハ、語脈タヘタルガ如ク思ハル、詩ニモ、必ズ語脈ノタヘヌ所アル者也、ヨクヨク意ヲ付テ見ヨ、倭人ノ詩ハ語脈ノ處ニ至リテタヘニナリテ貫通セヌヘ、音律ニカケテ歌フニモ、ハナレハナル事ドモ多シ、名家先生ト呼バル、人ノ詩ニモ、語脈ノタヘタル詩多シ、マシテ初學ハ、一句片言ニ語脈ヲツマケカヌル者ナレバ、ヨク意ヲ付クベキナリ、又

名花傾國兩相歡、常得君王帶笑看。

詩學選丹卷之上

解釋春風無限恨 沈香亭北倚闌干

名花ハ牡丹也、傾國ハ美人也、楊貴妃ニタトフ、此詩ノ眼字ハ、歡ノ字ナリ、歡ノ字ヨリ、帶笑ト云フ字ヲ生ジ、第三句ニハ、無限恨ヲ釋ト云ヒ、又第四句ニハ、沈香亭北倚闌干ト云ヒ、ステタリ、倚闌干トハ、美人ハ闌干ノ上ニヨリ、名花ハ闌干ノ下ニツラナル、カ、ル氣色ナルガ故ニ、君王ハ爲ニエミヲ含ミテ、詠サセ玉フ、是レ名花傾國兩相歡ブベキユエンニシテ、無限恨ヲモ解釋スベキ事ナラズヤ、此詩、歡ノ字ヨリ意脈理通シテ、倚闌干マデ一貫セリ、其外葡萄美酒夜光杯、欲飲琵琶馬上催ス等ノ詩モ、全篇相承テ珠ヲツルガ如シ、學者意ヲトムヘキナリ、又古人ノ詩句ニハ、句毎ニ響字アリ、響字トハ、一句中ノ要處ヲ云也、學者此處ニ於テカヲ用ヒズンバ淺露ニシテ兒童ノ語トナル、例シテ示サバ、

宮草菲菲承委佩 爐烟細細駐遊絲

承ノ字、駐ノ字、眼字ニシテ響ク、此字ニアラザレバ面白カラズ、常竝ノ人ノ此詩ヲ作ランニハ、宮草菲菲、委佩、爐烟細細、遊絲、ナド、作ルユヘニ、兒童ノ語トナル、承ノ字、駐ノ字ニテ、活句トナルヲ意ヲ付クベキ也、又

此の數に
接する
往々數
あり今
く原本
にす
の站字
行に

星隨平野瀾 月湧大江流

ト云ヘルハ、隨ノ字、湧ノ字、響字ナリ、星ハ低平野瀾、月映大江流ナド、作ラバ、サノミ疵モナケレ、面自カラズ、隨ヲト云字ニテ、星ノ數モイヨク多ク思ハレ、湧ト云字ニテ、水中ヨリ月ノ上ルカ如ク思ハル、如明月前浦返句、明月前浦ニ掛リ、明月前浦上ルナド、作ラバ、音出ニナカルベシ、返ノ一字ニテ、詩味盡ニ對スシヲ如クニ思ハル、以上示ス處ノ例ハ、律詩ノ響字ナリ、絶句ニ至テハ、一字ニテ、全篇ノ經施ヲアラワス、例セバ、王仲宣ガ詩ニ、古木森森白玉空、長年來此試文章、日斜奏罷長楊賦、閑拂塵埃、青畫墻、荆公第三句ヲ改メテ、日斜奏賦、長楊罷ト云ワレタレバ、大キニ佳句トナリシナリ、又齊己カ早梅詩、前村深雪裡、昨夜數枝開ト作リタリシヲ、昨夜一枝開クトナラシタルニテ、佳句トナル、然レバ、五七言絶句ニ至テハ、一字ニ巧拙ヲアラハス、初學尤モ意ヲ留ムベキ也、以上諸條ハ初學最モ心ヲ盡スベキ所也、本邦百有餘年ノ昇平人文大ニ盛リニ、童口猶乳臭、善詩ヲ云フコトヲ解ス、牧豎樵子トイヘドモ、太白ガ飄逸、子美ガ沈鬱ト云フコトヲ聞キ覺ヘ、詩ハ、別材ナリ、學ンテ得ベカラズト云ヒ、太白ハ以不用意得之ナト、滄溟ヲ小楯ニトリテ、格別ニ意ヲツク

サズトモ詩ハ言フベキ者ノ様ニ覺ヘ居ルハ、如何計ノ誤リナルベシ、太白カ飄逸、子美ガ沈鬱、天性然リトイヘテ、今二賢ノ諸什ヲ見ルニ、太白トイヘテ、又沈鬱ノ處アリ、子美トイヘテ、又豪壯ノ所アリ、太白カ日照香爐生紫烟ノ句ノ如キ、流麗ニシテ意ヲ用ルコトモ深切ナリ、不用意ニシテ得ベキニアラズ、子美ガ雲移雉尾開宮扇、日繞龍鱗識聖顏ノ句ノ如キ、壯麗典重、諸人ノ及ブ所ニアラズ、此ノ老晚年ニハ南陽ノ一布衣ノミ、故ニ沈鬱ノ句アルハ、尤モノヲ也、其詩盡ク沈鬱ナルニハアラズ、太白子美トイヘテ、意ヲ盡シテ、後ニ得タルナルベシ、今人ノ古人ヲ模寫スル、字々ニ意ヲ留メズンバアルベカラズ、夫レ詩ハ不用意ニシテ言フベキニアラズ、

2

詩學還丹卷之上 終

詩學還丹卷之下

春川 源孝衡襄平 著

詩體 古ヘノ詩ノ體ヨリ近代ノ律詩絶句マテノ體ヲ載ス

風雅頌既ニ亡シテ變シテ離騷トナリ、再變シテ西漢ノ五言トナル、三變シテ歌行ノ雜體トナル、四變シテ沈宋ガ律詩トナリ、又絶句トナリ、雜體トナル、古人ノ文章ハ、自ラ音韻ニ應スル故ニ、自然ニ律度ヲ成ス、後世夏夷相猾ルニ當ツテ、中國ノ正聲ヲ失スル故ニ、沈約ニ至リ、韻學ヲ崇制ス、ソレヨリ以來、韻音始メテ正シトイヘ、凡傍岐亦少ナカラズ、詩格ノ體裁極メテ多シ、終ニ三十四格、十九圖、四聲、八病之類アルニ至ル、今マ初學ノ爲ニ、數體ヲ舉圖シテ以テ歩ヲ進ムルニ便リス。

吟 白頭吟

謠 白雲謠

詞 水蘭詞

引 走馬引

詠 五君詠

曲 鳥酒曲

篇 名都篇

唱 氣出唱

詩學還丹卷之下

日本詩話叢書

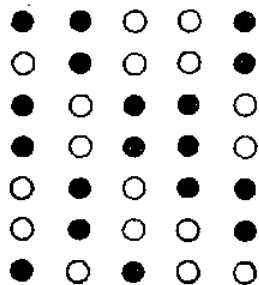
弄 江南弄

嘆 楚妃嘆
明君嘆怨 春怨
春怨樂 石城樂
估客樂別 新婚別
垂光別思 靜夜思
秋園思調 長調 短調
清平調

以上樂府歌行等ニ命題スル所ナリ、漢魏以來古詩長篇多ク、此體ヲ作ル、唐宋ノ間絶句ノ近體ニ以上ノ諸題ヲ詠スル者間多シ、初學知ラズンバアルベカラズ、吟トハキヤク登壇ノ悲吟スルガ如キヲ云、謠トハ詞意俚俗ニ通ズルヲ云、詞トハ其物ニ附ツテ詞ヲ成聯ナレツスル也、引トハ言ヲ長クシ始末備ハルヲ云、風詠ノ詞ナリ、曲トハ情ヲ委曲ニ言ヒ盡スヲ云、篇トハ全篇一成スルヲ云、唱トハ詠唱スルナリ、弄トハ遊弄詠賞ヲ云也、嘆トハ嗟嘆ヲ云也、怨トハ幽怨ニシテ憤ヲ含ムヲ云也、樂トハ音洛遊樂ノ語也、別トハ離ノ恨ヲ説ク也、思トハ愁思ナリ、調トハ樂律ノ調子ヲ云フ、以上ノ諸體ヲ歌行ト云フ、歌トハ情ヲ放ニシテ歌フ也、行トハ行書ノ婉ニシテ強ナルガ如キヲ云フナリ、共ニ歌詠スル也。

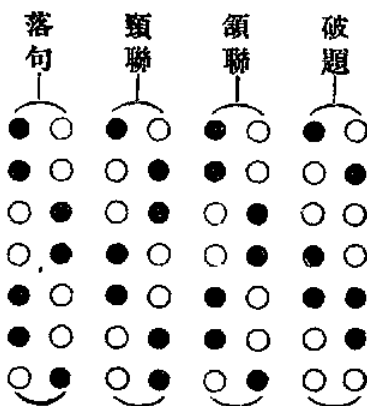
律詩絶句定體變體

詩學選丹卷之下



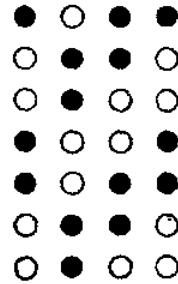
拗體

右仄起ノ圖ナリ平起ハ準シテ知ルベシ。

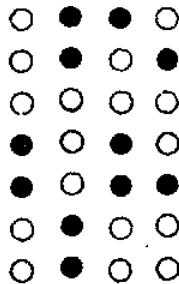


第一聯ヲ破題ト云、驚風ノ浪ヲ
卷キ、天ニ酒ノ勢ヲ貴ア、
第二聯ヲ頷聯ト云、靈龜珠ヲ抱
キ春ア一羅キヲマナベ、
第三ヲ頸聯ト云、疾雷山ヲ破リ、
幽探鬼神ヲ泣カシムルヲ貴ア、
落句ハ高山ノ頂ニ石ヲ放チ一去
カヘルトナキ勢ヲ貴ア、

是レ平起ノ詩也、仄起ハ準ジテ知レ、



同變體



是レ章蘇州ガ詩ニ、南望青山滿禁闌、曉陪鴛鴦正差池、共愛朝來何處雪、蓬萊宮裏拂松枝、ト云フノ格也、杜子美ガ詩、搗體多シトス、其外律絶ノ變體、扇對ト云ヘルアリ、扇對トハ律詩ノ對ヲ一句ヲ隔テ、對ト成ルヲ云フ。

得罪台州去、時危棄碩儒、

移官蓬閣夜、殺貴歿潛人、

詩學選丹卷之下

是レ老杜カ扇對ノ格ナリ、第一句ト三句ト對シ、第二句ト四句ト對スル故ニ云フ也、俗ニタスキ對トモ云フ也、又崔顥ガ詩ニ黃鶴一去不復返、白雲千載空悠悠、太白ガ詩ニ鸚鵡西飛隴山去、芳州之樹何青青ト云フガ如キ十四字ヲ以テ一句トナセル者也、是レモ又律詩ノ一變體也、又盤中廻文、返覆、離合、等ノ色々ノ體アリトイヘル戲論ニ近フシテ初學ノ式トスルニ足ラズ、以上圖スル處ノ諸體ニ於テ考ヘ合セテ歩ヲ進メバ、後ニハ排律古詩等ノ六ツカシキヲモ自ラ得意スベキナリ。

詩思 詩ヲ作ル
ガモリヲ

詩ノ思ヒアル、卒然トシテ遇之、不止思ヒ中ニアレバ外ニアラハル、アラハレテ吟詠スベキ者ヲ詩トハ云フ也、サレバ詩ハ志也トテ我カ志ノマ、ニ詞ニ綴ルヲ云也、然レモ言辭ニ雅俗アリ、心志ニ邪正アリ、語鄙俚ナルトキハ、吟詠シテ正律カナハズ、心邪淫ナル所ハ風雅ノ正域ヲハナナル、鄙言ハ野人ノ事ナリ、雅言ハ君子ノ事也、鄙言ヲ轉シテ雅言トナス、毫髮ノ間相去ル、遠カラズ、假令兵衛ノ助ト言ハシニハイカメシキ官人ノ號ナランニ、助兵衛トイハンニハ、イヤシク淺聞シキ田夫ノ稱トナルガ如シ、言カタニヨリ、同シ文字ナレモ、大ニカワリメトナル、詩ハ志

也、我カ志ヲ言ヒ述ルマデノ事也ト覺ヘテ、言辭モ醜ヲ用ヒ、作意モ淺聞シカラシム
 ニハ、詩トハ言フベカラズ、詩ハ君子ノ辭也、サレハ一句ノ語ヲ言ヒ述ルニモ、鄙俗
 ニ陥ラズシテ心邪淫ナラザル様ニ心得ベキ也、兵衛ノ助、助兵衛ニテ雅トモナリ
 俗トモナルヲ、ヨクヨク心ヲ付クベキ也、同シ文字ニテ如何様ニモ面白ク作ラル
 ベキ也、扱詩ノ意味モ和歌連歌ナドニ、同ジフシテ志ヲ言述ルハ、唐モ倭モ別ニカ
 ハリタルニテハナシ、言辭鄙尊雅俗アルヲ得意セバ、如何様ニモ作り得ラレヌ
 ト云フハアラジ、假令ハ一筆啓上ト云フヲ華言ニテハ、虔修寸楮ト云ヒ、玉ヅサト
 云ハンヲ、錦字ト云フト心得ハ、此國ノ人ノ方言ヲ以テ歌ヲヨムトノ易キガゴト
 夕、詩ヲ作ルトモ亦、自易カラシム、タトヘバ、

四海波靜ニシテ、國モ治ル、時津風君カ惠ハ久カタノ、ツキセヌ御代コソ、目出
 タケレ。

ト謠ハンヲ、試ニ華言ニナラサハ、

明布四域、風溢九天、
 博哉帝德、聖壽萬年、

詩學選丹卷之下

ト云ハ、四海波ノ謠モ、同シコトナラン、又

あらしふくみひろの山のもみぢ葉は、

龍田の川のにしきなりけり。

ト云フ、歌ヲトリモナヲサズ此ノ意ニテ詩ニ作ラバ。

御室山頭楓葉秋、秋寒玉露染紅愁、

請看吹盡西風色、總入龍江作錦流、

ト云ハ、歌ノ意ノマ、ニテ、詩トモナルナリ。

秋風ぞふく白河のせき、

ト云フ歌ヲ詩ニテハ、

白河關外是秋風、

ト云ヒ。

入相のかねに花ぞちりける、

ト云フヲ詩ニテハ、

百八鐘聲催落花、

ト云へバ、歌ノ意ニテ詩トモナルナリ、又詩ノ比興ハ歌ニ、

難波津に咲や此花冬ごもり、

今をはるべと咲やこの花、

ト云フハ、仁徳帝ノ御徳ヲ、梅ニ比シ奉リ贊シタル歌ニテ、詩經ノ比ノ體ナリ、又二條ノ大閭良基公ノ徳ヲ稱スルトテ、

名は高し聲はうへなしほとゝぎす、

ト云ヒシハ子規ニ比シテ稱シタルナリ、又興トハ、歌ニ、

木にもあらず、草にもあらず、竹の節の、

はるに我身はなりぬべうなり、

是レ我身ノアドナキヲイハントテ、先ツ竹ノ節ニ興シテ、意趣ヲアラハス、是レ詩ノ興ノ體ナリ、又

花の色はうつりにけりないたづらに、

我身よにふるながめせしまに、

ノ歌ノコトキ我身ノ徒ニ、世ニフルヲイハントテ、花ノ色ニ語ヲ興シタルナリ、

又托物トハ我意味ヲ言フ處ノ物托テ言ヒ盡ス也、比興ヲ相兼ル者也、此體ハ貞徳カ東山ノ長嘯子ノ西山ノ花ノ寺ニ居ヲ移シタルニ贈リシニ、

兔にかくに月はうきよにすまじとや、

山より出でて山にこそいれ、

是レ全ク月バカリヲ言ヒタルナレドモ、月ニヨツテ感ヲ興シ、月ヲ以テ其人ニ比シタルコト深妙言ヒガタシ、是詩經ノ托物ノ體ナリ、以上數首ノ和歌高妙ニシテ浮靡ニ流レズ、風雅ノ體裁ニ叶ヘリ、詩モ和歌モ志ヲノベタル者ナレバ、違フベキ様モナシ、サレバ、和歌ニ違シタラン、人ハ自ラ詩ニモ通ズベキ也、但和歌ニ通達セシ人ノミニモ限ラズ、世ノ義理ヲ辨ヘタラン程ノ人ハ、詩ヲ作ラザルハアラジ、然レモ詩ハ中土ノ文字也、歌ハ方言ヲ以テツラヌル故ニ和歌ハ易ク、詩ハ難シ、然レモ意味ニツイテハ違フコトアラズ、故ニ以上ノ和歌ノ體裁ヲ得意シ、和言ノ何ト言フコトハ、詩語ノ某ニアタルト云フコトヲ會得セバ、初學一字ヲ下スコトアタハザル者トイヘモ、詩門ニ入ルコトヲ得ベキ也、故ニ若干ノ和語詩語ヲナラベ記シテ、童蒙ニ便

夏

春

む	風	春	春	暮	花	春	春	水	わ	う	お	は	こ
ぎ	か	の	を	の	く	さ		ぬ	か	く	そ	る	ち
あ	ほ	夜	送	の	も	む		る	く	ひ	き	か	ふ
き	る		る	春	り	し	雨	む	さ	す	日	す	く
風													風
麥	南	千	紅	催	春	雪	膏	綠	草	鶯	遲	淑	和
秋	薰	金	雨	暮	陰	殘	雨	水	青	語	日	景	風
日	入	客	落	花	風	花	輕	春	芳	黃	麗	韶	惠
永	琴	夢	花	謝	搖	遲	陰	水	草	鸚	日	光	風
獻	消	燈	臨	服	花	鶯	濕	谷	稗	黃	暖	烟	融
爾	暑	殘	水	成	暗	溢	花	漲	綠	鳥	日	光	風
蛸	解	子	蝶	萍	鶯	風	添	春	青	金	晴	暖	暖
鳴	愠	規	稀	生	怨	冷	柳	池	郊	鶯	日	影	風
柳	披	月	鶯	修	蝶			草	芳	綠	流	鼓	霽
暗	襟	白	老	禊	愁			生	池	平	鶯	琴	紅
風								鶯	魚	入	破	尋	掩
熱				鶯	悲			懶	躍	夢	夢	花	花
													吹
													柳

詩學選丹卷之下

冬

秋

風はげし	ころもかへ	重陽	十六夜	最中の月	中元の	魂まつり	星合	初秋	秋立	夏たける	なつの夜	伏日	さみだれ
烈風	寒砧	黄菊	玉珠	氷輪	披籍	設齋	鶴橋	涼入	立秋	送夏	蚊雷	暹暑	梅雨
地凍	玉杵	紫萸	兔魄	丹桂	金井	思親	金梭	露降	素秋	迎秋	苦短	火流	露衣
山鳴	撞月	登高	桂華	玉兔	氷盤	玄都	乞巧	風嬾	風冷	雲收	納涼	河朔	礎汚
木枯	驚夢	落帽	流暉	婦娥	觀燈	寶刹	星娥	落葉	葉飛	風起	池臺	螢飛	細雨
枯草	寄遠	佳節	風悲	廣寒	風爽	梧飄	佳期	罷扇	露冷	荷香	蓮沼	風薰	飛塵
飛蓬	思衣	重九	天高	玉鉤	赤壁	荷香	河鼓	登樓	雁來	榴花	螢飛	濯足	草長

以上四時ノ景物若干ヲ載セテ、初學ノ採摘ニ便リス、多キヲ食ルノ人ハ、諸書ニツ
 イテ求メ用ヒヨ。

守	冬	つ	雪	雪	雪	遠	雪	か
歲	の	い	の	の	の	山	雪	れ
孤	夜	な	花	月	山	の	雪	野
燈	残	結	冷	兔	虎	芙	柳	草
剪	燈	柳	綻	來	蹤	蓉	絮	白
彩	梅	縛	寒	珠	乘	玉	梅	烟
不	月	草	凝	潔	驢	峰	花	迷
眠	漏	除	積	夜	敵	寒	玉	原
爆	凍	窮	素	光	冰	光	樓	平
竹	風	追	飛	玉	煮	映	銀	兔
春	靜	疫	瓊	砌	茶	日	海	悲
酒	高	絳	六	廣	探	陰	冷	牛
五	寒	衣	出	寒	梅	嶺	豔	羊
更	深		彩	瓊	乘	雲	寒	飢
	雪		萼	宮	舟	端	光	禽

用事 故事ヲ用フ
 例本ヲ用フ

夫レ詩ハ情性ヲアリノマ、ニ言ヒ述ルヲ詩トハ云フ也、故ニ事ヲ用ルコトヲ貴ト
 ビス、古人故事ヲ用ル甚稀ナリ、昔賢ノ名句如思君如流水、高臺多悲風之句、目前ニ

ブル、景物ヲ吟詠スルノミニテ、聊モ故事ニアラズ、又潤明カ採菊東籬、下悠然見南山、靈運ガ池塘生春草ノ句、古今稱シテ絶妙トス、然シテ其意思ヲ細カニ辨ズレバ、目前ノ實景ニシテ、補假ニ非ザルヲ賞スルノミ、孔子ノ思無邪ヲ以テ詩經三百篇ヲオホフトノ玉ヒシモ、此ノ意也、今徒ニツトメテ故事ヲ用ヒハ、經史ヲ書抄スルニ同シ、何ソゾ詩ト云フコトヲ得ンヤ、或人怪テ曰ク、サスレハ、故事ハ決シテ用ユベカラザルノ事カ、余曰然ラズ、今ノ人故事ヲ使ハント欲シテ、多クハ故事ノ爲メニ使ハル如シ、故事ヲ使フテ、故事ノ爲メニ使ハレザルトキハ、可ナリトス、假令詩ノ題ト合フベキ處ノ故事ヲ取り、其詩ヲ埋ミ寺ニテハイツニテモ、御定リノ惠遠ヲ出シ、醫者ニハドコデモ董奉ヲ用ヒテ、句作りモ變態ナキヲ、故事ニ使ハル、トハ云ナリ、西清詩話曰、作詩、故事ヲ用ルハ、水中ニ鹽ヲ著ケテ、人ニ此レヲ示スニ、人鹽アルコトヲ知ラズ、其水ヲ飲ムトキハ、始メテ鹽ノ味ヲ知ル、猶ヲ故事ヲ用ルルハ、句中ニカクレテ、人卒爾ニ知ルコト能ハザルガ如シト云ヘリ、杜詩ニ

五更鼓角聲悲壯、三峽星河影動搖、

是レハ、瀾衡ガ傳ニ、搗漁陽、慘聲悲壯、漢武故事ニ、星辰動搖スト、方朔ガ曰ク、民勞ス

ルノ應也ト、此ノ二事ヲ用キタレテ、我意ヨリ作り出セルガ如クニ見ユ、又子美ガ九日崔氏ガ莊ノ詩ニ。

羞將短髮還吹帽、笑倩旁人爲正冠、

是レ孟嘉ガ龍山落帽ノコトヲ用ヒタレテ、己レ實ニ此事アルガ如クニ言ヒ成シタリ、誠ニ如此故事ヲ使フテコソ、故事ニ使ハレヌト云ベケレ、且又次ノ句ニ、笑倩傍人爲正冠ト云テ、孟嘉ハ帽ヲオトスヲ風流トシ、子美ハ落サヌヲ以テ、風流トス、妙甚シ、其外名人ノ故事ヲ遣シ處ヲ細カニ味ヒテ見ヨ、古ヘノ人ノ事ヲ用ヒナガラ己レガ力量トナルコト用ヒカタノ巧ナルガ故也、今ノ人ノ經史ヲ書抄シテ詩中ノ文字ヲウヅミ、故事ニ遣ハル、類ニアラズ、學者深ク意ヲ留ムベシ。

詩意含著

關雎ハ、樂テ淫セズ、悲テ傷ラズ、小雅ハ怨誹スレテ、不亂、是詩ノ教トナルユエンナリ、近世ノ詞人多クハ、此旨ヲ失ヒ、含蓄ノ氣象ナシ、タトヘハ唐人長門ノ恨ニ、珊瑚枕上千行淚、不是思君是恨君ト云ガ如キ卑キヲ甚ダシ、豈ニ詩教ノ樂テ不淫悲ンテ傷ラズ、怨誹スレテ不亂ノ旨ニカナフベケンヤ、惟王昌齡ガ詩ノ如キ、斜抱雲和

深見月、朧朧樹色隱、昭陽ト云テコソ、君ヲ思フノ意モアリテ、君ヲ恨ルノ思ヒモアリ、ツイニ悲ニ傷ラレズ、能ク詩經ノ趣ニカナヘリ、晏叔原ガ詩ニ落花人獨立、微雨燕雙飛ト云ガ如キ、色ヲ好メトモ不淫ノ法ナリ、劉長卿ガ月來深殿早、春到後宮遲シト云フ如キ、怨レテ亂ダレズト謂フベキ也、前キノ珊瑚枕上千行淚、不是思君是恨君、ノ句ノ如キ、是レヲ淺露ト云フテイヤシムト也、直ニ是レ恨君ト云テ恨ミノトヲオモテヘアラハレテアルユヘ、餘音アルコトナシ、詩ハ一唱シテ三嘆ノ意味アルヲコソ好ムベケレ、所謂高キニ高キヲイハズ、遠キニ遠キヲイハズ、閑不言、閑靜不言、靜憂不言、憂喜不言、喜樂ニ不言、樂ト云ヘル法ニ從フテ歩ヲ進メバ、自ラ精妙ニ至ルベキ也、高キニ高キヲ言ハズトハ、古詩ニ山根一片、雨瀾底百重、花ト云句アリ、是レ山根ト云ヒ瀾底ト云ヒカケテ少シモ高キヲ言ハザレト、山根一片ノ雨ヲ見ヤリ、瀾底百重ノ花ヲ臨トナラバ、其人高山ノ頂ニアルコト言ハズシテ、自然ニサコソト思ハル、是レ自然ニ高キ意ヲアラハス也、又閑ニ閑ヲ言ハズトハ、陶詩ニ犬吠深巷中、雞鳴桑樹顛ト云ヘリ、此二句犬雞ノナク聲ノミヲ云ヒテ、閑ト云フコトハ言ハザレト、自然ニ幽閑ノ意味深シ、柳子厚ガ漁翁ノ詩ニ、欸乃一聲山水綠、回看

天際下中流ト云フガ如キ所謂靜中ノ動ト云フ者也、漁翁ノアリサマヲアリノマ
 マニ云ヒ述ベタル計リナレド、其意味三嘆ノ餘音アリ、又太白ガ長安一片月、萬戶
 搗衣聲ノ句ハ、動中ノ靜ニシテ、キスタウツ聲ノ、一片ノ月ニ對シテアワレゲナル
 アリサマ言ヒ盡ガタキ意味合アリ、學者此漁翁ノ句ト、長安一片ノ月ノ句トノ、動
 中ノ靜靜中ノ動ノ意味ヲ辨シ、含蓄ノ意味ヲサトルベシ、又一種藁砧體ト云アリ、
 是レハ樂府ニ、

藁砧今何在、山上復安山、

山上ニ山ヲ安ンズトハ曲言ナリ、山ニ山ヲカサスレバ出ノ字トナルナリ、久シク
 出テ遊ンデ家ニカヘラサルヲ云、

何日大刀頭、破鏡飛上天、

大刀頭トハ、刀ノ頭ニアル環ナリ、環ハメグル者ナレバ、何レノ日カメグリ還ツテ
 本ノ如クニ、歸リ來ラル、トゾトナリ、破鏡ハ半月ニシテカヘルニタトヘタル也、
 又今ハ別レノニ成リイレバ、破鏡ノマトカナラヌ様ナ物也、何シカ環ノメグル
 ガ如ク歸リ來リテ、圓ニハナルベキヤト云ヒカケタル曲言ナリ、近體ニモ此ノ格

ニ作リタル詩アリ。

天門中斷楚江分

門ノ字ハ、真中離斷シテ二ツニ分タル字ナリ、故ニ其意ヲ句中ニ含マセテ、天門中斷楚江分トハ言ツラネタルベシ、古人此體間多シ、然レモ初學ノ人ハ此ヲ則トスベカラズ、邪路ニ陷リヤスシ、但シ古人ノ一體ナレバ、此ニシルシハベル。

連綿字數字

重疊字カ
ズ文字

古人連綿ノ字ヲ下スモ、虛夕發セズ、今人連綿ノ字ヲ下スモ至ツテ易キガ如クス、然レモ佳句ナキコハ意深切ナラザルガ故ナリ、子美ガ無邊落木蕭蕭下、不盡長江滾滾來、蕭穎之カ連綿、澗川迴杳、駢路深シ等ノ語、豈卒意ニ下スベケンヤ、又數字ヲ以テ對ヲナス者、句中ニ輕重ノ差別アラザルモハ、調卑シ、賈島カ萬水千山路、孤舟盡日程ノ類、以テ法トスルニ足レリ。

活字死字詩ノハダラキ

文章ニ活字、死字アリ、詩ニモ亦之アリ、活字ナキ詩ヲ兒童ノ詩ト云、タトヘバ、方干ガ詩ニ鶴盤遠勢、投孤嶼、蟬曳殘聲、過別枝ト云、句巧ナルコト甚ダシ、如常竝ノ人ニ作

ヲセタラバ、鶴張遠勢、翔孤嶼、蟬有殘聲、移別枝ナド、作ラン是レ兒童ノ語ナリ、盤ノ字、投ノ字、曳ノ字、過ノ字ニテ、活文トナルコト意ヲ留ムベキナリ。

風枝驚散鶴、露草覆寒蛩

春陰妨柳絮、月黑見梨花

檻外低秦嶺、窓中小渭川

宮闕通祥帝、乾坤到十州

爐烟添柳出、宮漏出花遲

以上ノ詩句、第三字活用ノ眼字ナリ。

長承密旨歸家少、獨奏邊機出殿遲

金闕曉鐘開萬戶、王階仙仗擁千官

宮草萋萋承委珮、爐烟細細駐遊絲

鶯傳舊語嬌春日、花學嚴粧妬曉風

卷簾陰薄漏山色、歌枕韻寒宜雨聲

以上ノ諸句、第五字活用ノ眼字ナリ、凡ソ詩ヲ作ルニ、此ノ處ニ至ツテ死字ヲ用フ

レハ、一句ノハタラキナクシテ、死句トナル、以上ノ句ノ第三字第五字ノ、ハタラキタル活句法ヲ以テ、規則トナサバ、句句金玉ヲ吐キ出ダシテ、不盡ノ意味アルベシ、初學尤モ意ヲ盡スベキナリ、又絶句ノ如キハ、定式ノ好文字アリテ、助紐スルヲ佳トス、調モ卑劣ニ至ラズシテ、句格モ早ク出來ルナリ、ダトヘバ、

如^カシ^クハ 不^ラ知^ル 何^レ處^カ 況^シ是^レ 知^ル是^レ 好^シ是^レ 幾^ク處^カ 多^ク少^ク 爲^レ誰^カ 爲^レ報^ス 爲^レ許^ス 非^シ是^レ
 休^ム言^フ 惟^ト言^フ 但^シ是^レ 正^シ是^レ 況^シ復^ス 聞^ク言^フ 聞^ク說^フ 遮^ル莫^ク 何^レ時^カ 何^レ日^カ 何^レ人^カ 縱^シ令^フ
 不^ラ知^ル 何^レ處^カ 須^ク知^ル

以、ノ好文字ヲ以テ、助紐シテ作ラバ、句體自ラ勝レテ、不盡ノ意味アラン、聯珠詩格ナドニ此ノ格ヲ詳カニ載ス、初學ノ人ハ考互シテ法則トスベキ也。

詩學還丹卷之下終

大正九年四月廿八日印刷
大正九年五月一日發行

日本詩話叢書卷二

非賣品

編輯者 池田四郎次郎

東京市神田區小川町一番地

立田義元

東京市麹町區有樂町二丁目一番地

吉原良三

右同所

印刷所 報文社



發行所

東京市神田區
小川町一番地

文會堂書店

電話神田三二一六番
張替東京三五一一番